

科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科				単位数	授 業 形 態				
知的財産権 (Intellectual Property Rights)	選択	後藤多栄子	5 年生 4学科共通				1	前期 週 2 時間				
授業概要	知財全般の基礎知識を習得することを目的に、独占禁止法を中心に知的財産権のさまざまな事例をとおして、知的財産権の企業戦略を学ぶ。知財全般の知識を深め、特許出願に必要な実践的知識や技術を指導する。											
到達目標	知的財産権の基礎的法体系の修得と事例をまなぶ。特許アイデア創出や出願明細書作成に必要な基本技術を学ぶ。											
評価方法	1. 課題（50％） 2. 試験（50％） 1 と 2 の方法で到達度60%以上で合格とする。											
教科書等	独占禁止法ガイドブック・入札談合と独占禁止法・産業財産権標準テキスト(総合編)											
内 容										学習・教育目標		
第 1 週	概要説明 市場と競争 「和を持って尊しとする」？ 市場における競争の役割について講義する。									A		
第 2 週	不正行為と企業倫理 「模倣」についての両面を考察し、企業が違法となる行為を示しつつ、企業の倫理について考察する。									A		
第 3 週	不正競争防止法 不正競争防止法が規制する行為を分類別に講義し、実際の事件を取りあげて説明する。									A		
第 4 週	経済憲法としての独占禁止法の位置づけを講義する。企業の経済活動において、公正で自由な競争は不可欠であるが、そういった競争と独占禁止法とのかかわりを説明する。									A		
第 5 週	独禁法が規制する 3 条前段の私的独占について事例を取りあげつつ講義する。 例：インテル事件									A		
第 6 週	独禁法が規制する 3 条後段のカルテルや談合について事例を取り上げつつ講義する。 例：公共事業談合事件									A		
第 7 週	独禁法が規制する 19 条の不公平な取引方法について事例を取り上げつつ講義する。 例：再販売価格拘束 ハーゲンダッツ事件									A		
第 8 週	独禁法の適用除外となっている知的財産に関する 21 条について事例を取り上げつつ講義する。例： パチンコプール事件									A		
第 9 週	商標法についての体系的な制度を講義する。									A		
第 10 週	意匠法についての体系的な制度を講義する。									A		
第 11 週	特許法についての体系的な制度を講義する。									A		
第 12 週	特許： 発明アイデアの創出方法について講義する。									A		
第 13 週	特許： パテント検索そして明細書の書き方について講義する。									A		
第 14 週	著作権についての体系的制度を講義する。									A		
第 15 週	知財権に関連する国際的条約について講義する。									A		
(特記事項) 特許電子図書館の使用について、外部講師（弁理士）の指導がある。		JABEE との 関 連										
		JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
		本校の学習 ・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			◎									

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

ガイダンス

知的財産の時代です。ものづくりとアイデアを結合させたものが知的財産権です。科学技術と密接不可分な関係にある知的財産についての基礎知識を学び、企業人になった時に実践できるように関連法学知識を教授します。

多くの企業でコンプライアンス研修に取り入れられているビジネスローとしての経済憲法である独占禁止法の基礎を学ぶことにより、市場と競争と独占の関係を考えます。特許権をはじめとする狭義の知的財産権は権利者に対し、排他的で絶対的な独占権を付与するものですが、独占禁止法とともに学ぶことにより、権利濫用の不当性を理解し、体系的な知識を身につけ、そしてさらにコンプライアンスである法令遵守についての理解を深める事ができます。

特許のアイデア創出演習をとおして、実際に自分のアイデアをかたちにしてみましょう。